

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

地下足袋と共に一生身魂

南町 濱野 洋子

●特選の選評

この句から孟蘭盆会が思い出され、今は亡き人の霊をお迎えし、仏壇を飾り、灯明を供え、家族みんなで供養する行事が浮かんだ。また、生きている目上の人に対しても、礼を尽くし敬うべき年長者のことを「生身魂」と呼び、一族の生活が無事であることを喜び、健康であるよう祈る気持ちから出来た季語である。「地下足袋と共に」一生とは作者の祖父母、両親が農作業に従事して来た人と思われ、下五に「生身魂」と結んで、作者の家族への感謝の気持ちが十分に伝わって来た秀句である。

俳句

入選



加茂都紀女 先生

「帰りやんせ」の歌碑に来て月一人占め

今泉町 木村 定男

畳替えて心落ち着く蘭草の香

中岡本町 中沢 智子

返却日せまる本なり蚯蚓鳴く

さつき3丁目 和田 悦子

牛の数揃ふ確認収閉ぞす

野沢町 渡辺 明広

特選

湧き水の小川のほとり群なして
つり舟草は舟出の構へ

清原台6丁目 小太刀 節子

●特選の選評

小川だから、大した川ではない。湧き水の、とあるが、群れなして舟出の構えをしているのだと作者は捉えた。ここが秀逸である。草木の名はカタカナで表すのが一般的であるが、ここは「つり舟草」でよく、「舟出」を「船出」にするというオーバーな感じがしてもっと面白くなるはずだ。花は先端が丸まり、舟に似ているようだ。

短歌

入選



藤本 都 先生

刈り入れの済みし田の端にさやさと
沢瀉白く咲き残りたり

清原台1丁目 三木 紋子

その昔武士走るらん鉤の手の
角に群れ咲く水引の花

西2丁目 佐藤 順子

猛り立つ川は悍し田を畑を
家を呑みゆく嗚呼人までも

清原台5丁目 北市 邦子

熊野路の雨の古道を直歩き
神の気配に身を引き締める

山本2丁目 鈴木 豊子

特選

新聞をピンチアウトのスマホ癖

雀の宮6丁目 増渕 和子

●特選の選評

重病が特別の理由がない限りスマホを手にはしない日はほばない。一日合計すれば時間単位になる操作を繰り返し指も慣れピンチアウトもピンチインも容易にできて拡大縮小が自在になる。新聞を読むにもつい癖で拡大しようとする。

川柳

入選



佐藤隆久 先生

体重計片足浮かし乗った妻

平松本町 川野 和美

三歳の子はタメグチのお友達

西川田本町 高松 幸子

検診の医師の目付きに増す動悸

立伏町 大樹 龍五郎

旨そうな水族館のアジの群れ

中岡本町 竹内 竹ノ花

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面＝住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面＝作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877



▲市HP

表

裏

宇都宮市役所
広報広聴課
住所・氏名・ふりがな・壇名

作品
作品への思い
作品への思い